



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月1日

上場会社名 株式会社あじかん 上場取引所 東  
コード番号 2907 URL <https://www.ahjikan.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純  
問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 森屋敷 登 TEL 082-277-7010  
四半期報告書提出予定日 2024年2月7日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	37,699	6.2	1,317	230.3	1,657	138.4	1,114	148.8
2023年3月期第3四半期	35,503	4.7	398	△2.2	695	14.5	447	14.7

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,374百万円 (98.4%) 2023年3月期第3四半期 692百万円 (38.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	146.37	—
2023年3月期第3四半期	58.82	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	29,358	15,410	52.5	2,024.76
2023年3月期	25,102	14,157	56.4	1,860.14

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 15,410百万円 2023年3月期 14,157百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	16.00	16.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注2) 2023年3月期期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 記念配当 1円00銭

(注3) 2024年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 特別配当 5円00銭

(注4) 配当予想の修正については、本日(2024年2月1日)公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	5.4	1,200	—	1,650	253.9	1,150	329.2	151.10

（注1）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

（注2）連結業績予想の修正については、本日（2024年2月1日）公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期3Q	7,700,000株	2023年3月期	7,700,000株
② 期末自己株式数	89,053株	2023年3月期	89,053株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	7,610,947株	2023年3月期3Q	7,610,947株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用や所得環境が改善する中、停滞していた景気の緩やかな回復が期待される状況となりました。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化や円安進行による物価上昇に加え、金融資本市場の変動、世界的な金融引き締め、中国経済の先行き懸念、中東地域をめぐる情勢など景気回復の下振れリスクも台頭しており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、資源価格の高騰や円安進行によって仕入価格や諸経費が高騰しており、厳しい経営環境で推移いたしました。また、前連結会計年度において、過去に類を見ない規模の鳥インフルエンザが発生したことに伴い、鶏卵価格が高値で推移した結果、鶏卵を扱う企業にとっては非常に厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、『需要創造型食品メーカーへの挑戦』および『利益構造改革と経営品質の向上』をテーマとした第12次中期経営計画の最終年度をスタートさせ、第一に「利益構造改善への取り組み」、第二に「業務用食品事業の成長拡大」、第三に「ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案」、第四に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、37,699百万円（前年同四半期比6.2%増加）となり、前年同四半期実績を上回ることができました。一方、利益面につきましては、売上高の拡大効果や諸経費抑制などにより、営業利益は1,317百万円（前年同四半期比230.3%増加）となりました。経常利益は、デリバティブの時価評価益や為替差益などにより1,657百万円（前年同四半期比138.4%増加）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,114百万円（前年同四半期比148.8%増加）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ①業務用食品等

販売面におきましては、鶏卵価格の高騰に加え、鶏卵原料の供給制限に伴う玉子製品の販売抑制などの影響もありましたが、玉子製品や海外調達品などの販売価格見直しを行ったことに加え、野菜加工品、自社企画ブランド品・仕入商品の需要が拡大したことや、繁忙期である年末の売上が大きく伸張したことなどが奏功し、国内売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。他方、海外輸出売上高につきましても、玉子製品の販売抑制による影響や、中国における水産加工品の輸入停止措置の影響はありましたが、販売価格見直しに加え、北米、オセアニア、香港、シンガポールを中心に需要が拡大し、前年同四半期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産効率の向上や、供給制限に合わせた加工費のコントロールなどにより、製造原価率の抑制に努めましたが、供給制限による生産稼働率への影響や、鶏卵を始めとした主要原材料価格の高止まり、原油高に伴うエネルギーコストの高騰などにより、製造原価は前年同四半期に比べ上昇いたしました。

販売費につきましては、物流コストの低減や、その他経費執行の抑制などに努めた結果、前年同四半期以下にとどめることができました。

これらの結果、外部顧客への売上高は34,857百万円（前年同四半期比7.3%増加）となり、セグメント利益（営業利益）は2,326百万円（前年同四半期比115.3%増加）となりました。

#### ②ヘルスフード

販売面におきましては、通信販売は、衛星放送を中心としたテレビCMなどの広告宣伝効率が低下したことや、物価上昇による嗜好品の買い控えなど外部要因も加わり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。他方、ドラッグストアなどでの市販品につきましては、機能性表示食品「焙煎ごぼう茶キレイブレンド」、「焙煎ごぼうサプリ エラスチン+」など新製品の投入効果はみられたものの、健康茶市場の需要に服感がみられたこともあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。なお、2023年9月には通信販売の顧客満足度向上を目的として、福岡市にカスタマーセンターを増設いたしました。

開発面におきましては、焙煎ごぼうを主原料としたチョコレート風の食品素材（メルバード）を開発し、クラウドファンディングサイト「Makuake（マクアケ）」において、メルバードを用いたチョコレート風食品「GOVOICE（ゴボーチェ）」を2023年11月より先行販売いたしました。販売期間は2024年1月までとなっておりますが、当第3四半期連結会計期間末時点で目標額を大幅に達成するなど、大きな反響を得ております。

生産面におきましては、主要原材料であるごぼうが高値で推移したことや、エネルギーコストの高騰などにより固定費が上昇しましたが、生産高が減少したことに伴い、製造原価は減少いたしました。

販売費につきましては、減収に伴う変動費の減少はありましたが、広告宣伝効率の改善に向けて地上波のテレビCMやECモールへ積極的な広告宣伝活動を行ったことや、カスタマーセンターの増設に伴う諸経費の増加などもあり、前年同四半期に比べ増加いたしました。

これらの結果、外部顧客への売上高は2,480百万円（前年同四半期比5.4%減少）となり、セグメント利益（営業利益）は297百万円（前年同四半期比43.5%減少）にとどまりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4,255百万円増加し29,358百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,858百万円増加し16,490百万円となりました。主な増加要因は、受取手形及び売掛金の増加2,633百万円、商品及び製品の増加782百万円、原材料及び貯蔵品の増加266百万円などでありま

す。固定資産は、前連結会計年度末に比べ396百万円増加し12,868百万円となりました。これは、減価償却の進行を上回る取得による有形・無形固定資産の増加に加え、投資その他の資産において投資有価証券や、その他に含まれる関係会社出資金が増加したためであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,002百万円増加し13,947百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,826百万円増加し12,563百万円となりました。主な増減要因は、買掛金の増加1,301百万円、短期借入金の増加800百万円、未払法人税等の増加424百万円、賞与引当金の減少184百万円などでありま

す。固定負債は、前連結会計年度末に比べ175百万円増加し1,383百万円となりました。主な増減要因は、長期借入金の増加219百万円、リース債務の減少61百万円などでありま

す。なお、当第3四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ1,068百万円増加し6,340百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,252百万円増加し15,410百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上1,114百万円、為替換算調整勘定の増加141百万円、その他有価証券評価差額金の増加109百万円、剰余金の配当による減少121百万円などでありま

す。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.9ポイント減少し52.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、修正しております。

詳細につきましては、本日(2024年2月1日)公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,110,994	2,040,007
受取手形及び売掛金	5,791,190	8,424,918
商品及び製品	2,750,785	3,533,141
仕掛品	50,097	46,033
原材料及び貯蔵品	1,456,009	1,722,543
その他	490,200	746,901
貸倒引当金	△17,895	△23,458
流動資産合計	12,631,382	16,490,086
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,613,057	3,553,409
機械装置及び運搬具（純額）	1,768,561	1,814,393
土地	3,821,460	3,963,851
リース資産（純額）	291,534	240,765
その他（純額）	517,857	529,273
有形固定資産合計	10,012,471	10,101,692
無形固定資産		
ソフトウェア	420,467	532,553
ソフトウェア仮勘定	134,905	122,445
リース資産	32,294	21,202
のれん	16,454	4,113
その他	3,356	3,599
無形固定資産合計	607,478	683,914
投資その他の資産		
投資有価証券	646,601	801,191
長期前払費用	1,879	981
繰延税金資産	64,343	—
退職給付に係る資産	317,224	349,844
その他	869,296	977,603
貸倒引当金	△47,757	△47,123
投資その他の資産合計	1,851,589	2,082,497
固定資産合計	12,471,539	12,868,104
資産合計	25,102,922	29,358,190

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,206,420	4,507,538
短期借入金	4,030,000	4,830,000
1年内返済予定の長期借入金	438,542	487,560
リース債務	125,417	117,358
未払法人税等	30,433	455,211
賞与引当金	329,100	145,025
役員賞与引当金	—	35,370
契約負債	87,463	67,717
その他	1,489,990	1,918,122
流動負債合計	9,737,367	12,563,904
固定負債		
長期借入金	803,650	1,022,980
長期未払金	96,531	60,672
リース債務	234,353	173,321
資産除去債務	54,076	54,181
退職給付に係る負債	17,843	19,162
繰延税金負債	190	52,153
その他	1,500	1,500
固定負債合計	1,208,144	1,383,971
負債合計	10,945,512	13,947,875
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102,250	1,102,250
資本剰余金	1,098,990	1,098,990
利益剰余金	11,410,608	12,402,837
自己株式	△64,426	△64,426
株主資本合計	13,547,421	14,539,650
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	163,838	273,274
繰延ヘッジ損益	△10,847	△860
為替換算調整勘定	456,996	598,250
その他の包括利益累計額合計	609,987	870,664
純資産合計	14,157,409	15,410,315
負債純資産合計	25,102,922	29,358,190

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	35,503,163	37,699,115
売上原価	27,217,379	28,469,186
売上総利益	8,285,784	9,229,928
販売費及び一般管理費	7,886,934	7,912,617
営業利益	398,849	1,317,310
営業外収益		
受取利息	4,112	591
受取配当金	18,173	19,632
持分法による投資利益	57,183	61,980
長期為替予約評価益	—	31,818
保険返戻金	8,000	—
為替差益	289,396	242,322
その他	23,264	24,068
営業外収益合計	400,131	380,415
営業外費用		
支払利息	23,025	23,657
長期為替予約評価損	73,394	—
その他	7,393	17,024
営業外費用合計	103,813	40,681
経常利益	695,167	1,657,043
特別利益		
固定資産売却益	6,610	2,788
固定資産受贈益	300	—
投資有価証券売却益	3,257	—
特別利益合計	10,167	2,788
特別損失		
固定資産除却損	732	1,204
投資有価証券売却損	4,750	—
投資有価証券評価損	1,386	—
特別損失合計	6,869	1,204
税金等調整前四半期純利益	698,465	1,658,628
法人税、住民税及び事業税	166,487	477,811
法人税等調整額	84,302	66,812
法人税等合計	250,790	544,624
四半期純利益	447,674	1,114,004
親会社株主に帰属する四半期純利益	447,674	1,114,004



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	447,674	1,114,004
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56,412	109,435
繰延ヘッジ損益	△35,536	9,987
為替換算調整勘定	170,233	105,375
持分法適用会社に対する持分相当額	54,172	35,877
その他の包括利益合計	245,282	260,676
四半期包括利益	692,957	1,374,680
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	692,957	1,374,680
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	32,476,418	2,622,518	35,098,937	404,226	35,503,163	—	35,503,163
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	424,042	424,042	△424,042	—
計	32,476,418	2,622,518	35,098,937	828,269	35,927,206	△424,042	35,503,163
セグメント利益	1,080,833	525,527	1,606,361	7,843	1,614,204	△1,215,355	398,849

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,215,355千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,164,138千円及び棚卸資産の調整額△51,216千円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	34,857,350	2,480,956	37,338,307	360,807	37,699,115	—	37,699,115
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	412,288	412,288	△412,288	—
計	34,857,350	2,480,956	37,338,307	773,096	38,111,403	△412,288	37,699,115
セグメント利益 又は損失(△)	2,326,796	297,118	2,623,915	△18,351	2,605,564	△1,288,253	1,317,310

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,288,253千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,267,793千円及び棚卸資産の調整額△20,460千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。